

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年 6月 9日記入

基本目標	Ⅲ ▼ 躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	32210
政策名 (章)	第2章 質の高い都市基盤の整備を進めます	評価担当課	土木部 ▼
基本施策名 (節名)	第2節 安全でゆとりある道路の整備		土木計画課
施策名	人にやさしいみちづくり	課長名	内田 徹

1 施策の概要・目的

道路についても環境やバリアフリーに配慮したものが求められている中、障害者や高齢者をはじめ、市民の誰もが安心して歩行できる道路環境作りを進めるため、歩道の拡幅整備、段差の解消、点字ブロックの適切な配置、駅前広場におけるペDESTリアンデッキやエレベーター、エスカレーターなどの設置を行うとともに道路の適切な管理のための設備充実等の維持補修工事をおこなうもの。

2 施策の現状

道路パトロール及び市民要望などに基づく整備箇所は増加している。
また、今後の整備は、バリアフリーに配慮したものが不可欠なものになっているためその設備経費及び管理経費の増加が必要になっている。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

1,139,170 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

1,849 円/人……人口は、61.6 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 31 番目です。

(4) 施策に要している人員

11.49 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	2m以上の歩道整備率の増 2m以上の歩道/歩道のある道路延長 ×100 (H10 63.2% H13 64.1%)	2m以上の歩道整備 率により安全で快適 な歩行空間化をみる	137.2 km 単位	0 50 100	63%	目標年度
			214 km 単位			達成度
指標2	歩行者事故率の減少 歩行者事故数/総事故数×100 (H10 10.9% H13 10.0%)	総事故数に対する歩 行者事故数の割合 により、歩行の安全 化をみる	545 件 単位	0 50 100	達成度	目標年度
			減少 単位			達成度
指標3	安全施設整備要望箇所等整備率 整備数/要望等数×100 (H14 571/567×100 100.7%)	市民要望数に対する 整備数により、市民 の満足度をみる	571 件 単位	0 50 100	100%	目標年度
			567 件 単位			達成度

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

市道の維持管理補修については、必要不可欠な事業であり、道路パトロール及び市民要望に基づく補修工事をおこなっている。さらに、安全で快適な歩行空間の確保は、今後迎える少子高齢化社会に対し必要なものと交通バリアフリー法も施行(H12.11)された。今後の道路等の公共施設の整備の際には、バリアフリー化整備は不可欠であるとともに、市民等からのバリアフリー化の要望も増加すると思われる。

6 有効性…期待される効果があがっているか

横断防護柵やカーブミラーなどの設置により交通事故の軽減が図られるとともに点字ブロックの敷設や歩道の段差解消などにより高齢者や身体障害者等にもやさしいみちづくりが図られている。

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

補修工事については、市民等からの要望に基づくものであり、その整備は必要最小限に行っているため、効率性がある。また、安全施設の整備は、横断防護柵やカーブミラーなどの設置のような必要最小限の整備を行っているため、効率性がある。さらに、歩道拡幅整備は、車道を狭め歩道用地を確保するなど事業費の削減に努めている。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

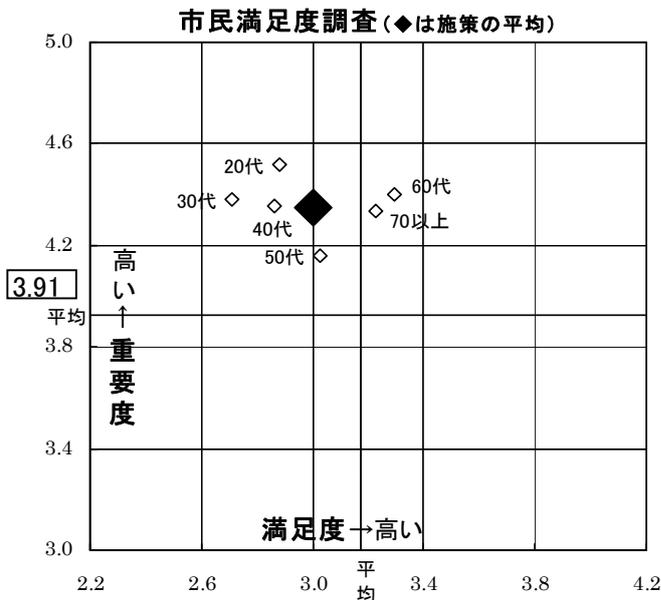
◆この施策の満足度は、3.005で、調査した51施策の中で46番目です。

◆この施策の重要度は、4.347で、調査した51施策の中で3番目です。

◆この施策の改善要望度は、0.949で、調査した51施策の中で3番目です。

◇年齢別にみると、満足度は60歳代以上で高く、30歳代で最も低くなっています。重要度は20歳代で最も高く、50歳代で最も低くなっています。20歳代及び30歳代の比較的若い年齢層で改善要望が高くなっています。

市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)



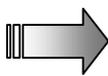
9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

厳しい財政状況の中、要望数の増加に伴う維持補修経費や昇降施設等の維持管理経費など必要的経費の増加により、歩道拡幅等整備的経費の確保が厳しい。

整備事業と併せて、道路利用のマナー向上など、今後とも、市民への啓発活動を行う必要がある。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充する
<input type="checkbox"/> 現状維持する
<input type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

- ・道路の維持補修やバリアフリー化は市民の満足度調査による重要度が高いが満足度は低いため今以上の事業の拡充を図る。
- ・道路パトロール等により補修箇所の早期の発見に努め、市民等からの要望箇所も含め維持補修整備を進める。
- ・交通安全対策や少子高齢化対策として、歩道の拡幅整備やカーブミラーや横断防護柵など安全施設等の整備を進める。さらに、駅前広場など多くの市民が利用する箇所においてはエレベーターなどの昇降施設等バリアフリーに配慮した整備を進める。

11 2次評価

説明

<input checked="" type="checkbox"/> A	市民満足度調査において重要度が非常に高い施策であるため、費用の圧縮や優先順位を明らかにした上で、積極的に事業を推進すること。
<input type="checkbox"/> B	
<input type="checkbox"/> C	

12 外部意見

説明

バリアフリー化について、利用者の動線確保を図るため面的な整備を行うなど積極的に推進すべきである。

